

災害時医療 AMDA 支援

高知市、須崎市、黒潮町と協定



国際医療NGO「AMDA（アマダ）」（本部・岡山市）は2日、大規模災害の発生時に医師・看護師を派遣し、被災者の医療・公衆衛生面の支援にあたる協定を高知市、須崎市、黒潮町と結んだ。

（新田修、広浜隆志）

高知市役所で行われた締結式で、岡崎誠也市長は「災害時に大きな力になり、心強い」とあいさつ。AMDAグループの菅波代表は「災害時は市や海外の国と協力しながら支援を進めたい」と話した。

須崎市役所では、同市の

楠瀬耕作市長と黒潮町の大西勝也町長が協定書に調印した。菅波代表が、阪神大震

災や東日本大震災の経験から「災害時に派遣した医師スタッフの活動拠点を決めてほしい」「インフルエンザなどの感染症対策として、避難所にも隔離場所を確保すべきだ」などと要望。市長らは「早急に対処する」と応じた。

基幹道路の寸断を想定し、オートバイやヘリコプターを利用して、AMDA

黒潮町・須崎市 締結式



のある岡山市から須崎市と黒潮町まで医療スタッフを



協定書を手に握手する菅波代表（左）と岡崎市長（高知市役所で）

送り込む訓練を年内に実施することを話し合った。大西町長は「町民の防災への関心は高く、協定は心強い」と話した。楠瀬市長は「二市の災害拠点病院は津

波で浸水して機能しない可能性があり、協定は非常に有意義だ。アドバイスを受けながら、災害に強いまちづくりを進めたい」と強調した。AMDAは1984年設立で、アジア医師連絡協議会の英語の頭文字から命名した。国内外の医師・看護師計400人が、紛争や災害に苦しむアジアやアフリカの国々で活動している。

これまで56か国で162件の緊急医療支援活動を実施してきたという。